令和7年度(2025年度) 自己評価書

北海道清水高等学校

1 本年度の重点目標

授業改善により主体的に学ぶ喜びを感じさせ、課題について考え、他と協議しながら行動する学習指導を推進する。
生徒に寄り添い、個々の生徒に自己有用感を育む発達支持的な生徒指導を実践する。
夢を持たせ、その実現に向け持続的に取り組ませるキャリア教育を推進する。

2 学校自己評価結果及び改善方策等

4:十分達成できた、3:まあまあ達成できた、2:あまり達成できていない、1:まったく達成できていない

大項目	中項目	番号	具体的評価項目	達成状況	取組の適切さ	実践事項・改善方策等
教育活動方針	学習指導	1	地域と協働した探究的な学習活動を体系的に編成・実施し、課題について主体的に考え、他と協働しながら行動する力を育む指導ができたか。	A	A	・授業中の発問に対して生徒が自ら考え回答したり、生徒同士協力して回答する姿勢が見られた。 ・関係機関との連携による商品開発から販売実習、コンテスト出品等に関わる学習活動が行われた。 ・保健福祉課、こども園、地元スーパーマーケット等と協働し、探究的学習、清水町社会福祉協議会や帯広コア専門学校と連携した授業を行った。 ・数学の授業の中で地域と協働した探究活動は難しい。研修会等で情報収集して活動を実践していく。 ・生徒が自ら取り組むことが難しいことが多かったため、様々な体験や個別での取組をもとにつなげられるようにしていきたい。 ・「社会探究」の授業において、清水町役場(商工観光課、企画課、学校教育課)と協働し、町と学校の課題について考える授業を行うことができた。
		2	観点別評価を効果的に実施することで、学習指導の改善と学習意欲の向上につなげることができたか。	B	B	・単元計画を作成してより細かく見取りながら評価することができた。 ・評価方法について生徒が理解できるように随時説明を行った。また、自己評価をもとに自己の学習状況の改善を図る機会とすることができた。 ・評価方法の見直しを行い、学習指導の改善につなげることができた。 ・観点別評価を意識して生徒一人一人が目標等を持って取り組めるような振り返りシートや課題ごとのポートフォリオなどの作成が必要と感じている。
		3	校内研修においてICT端末を効果的に活用した実践事例を共有し、各教科の試行へとつなげることができたか。	B	A	・授業、実習の事前学習、振り返りにICT端末を活用し、効果を高めている。 ・端末を使用し、調べ学習などに役立てた。 ・研修ではなく、職員室内で個別に共有した。 ・生成AIの導入やCanvaについて研修を受けたが、さらに研修が必要であると感じている。 ・生成AIの活用を校内研修で知り、授業準備の手間を軽減することができた。
	生徒指導	4	いじめ未然防止など自律した学校生活の実現に向け、執行部各委員会に自主的な取組をさせることができたか。	B	A	・評議委員会において生徒たちがクラスの代表として情報を共有しながら自主的に取り組む場面もあった。 ・職員が手薄で対応者に偏りが出てしまうなど、難しい場面が多く感じた。 ・教室に掲示した「いじめキーワード」などをもとに、生徒は互いに注意していた。 ・いじめ予防の課題として全校で考えるための企画を生徒会執行部の生徒が検討している。
		5	生徒に寄り添い、個々の生徒に自己有用感を育む生徒指導を実践できたか。	B	B	・自己有用感を持たせるアプローチをしているが、寄り添うことと結果的に甘やかしにつながることへの見極めについては改善が求められる。 ・学校行事や部活動において、生徒主体でチャレンジして成長する姿を見ることができた。 ・発言に注意をしながら指導できたと思う。 ・生徒指導に時間を取られてしまうことが多く、個別での面談や丁寧な指導ができなかったことがあり難しいと感じた。 ・図書室に来室する一部生徒の話に耳を傾けたりすることはできたが、どのように生徒に寄り添っていけばよいのか模索中である。
		6	生徒主体の活動を推進し、社会性と適切な自己主張ができる力を育てることができたか。	B	A	・学校の集団の中だけでは不十分と感じる。地域や家庭の多様な考え方の変化に対応できないことが増えてきている。 ・総合学科の特徴的学習の効果により、社会性が身につきやすい教育が行われていると感じる。 ・社会人講話など、地域の方々と関わることで自分の考えや社会に関わって考える機会ができたと思う。 ・生徒主体の授業を推進したが、自己主張できない生徒も見られた。授業改善に努めたい。
		7	学校生活のルール等の在り方を生徒自ら考えさせることを通じて、自律的な規範意識を身に付けさせる。	B	B	・考えさせる集団づくり、授業運営が不十分であった。考えさせる時間、能力の引き上げに時間を要することが多くなり、「答え」、「結果」を与えることが増えてしまった。 ・授業を通して生徒自身に考えさせ選択させることを心がけた。 ・学級担任や生徒指導部の指導により、自立的、規範的な態度のできる生徒がいるが、そうでない生徒もいる。どのように指導したら良いのか、教員全体で情報共有し、組織的に関わる必要があると思う。
	進路指導	8	総合学科の特色を活かした教育活動全体を通して自己の生き方を模索させることができたか。	B	A	・系列に分かれて、数学を選択する生徒の中で、より意欲的に学習に向かう姿が見られた。 ・生徒がこれからの人生、生き方を模索するため、教員自らが生徒の模範となる生き方ができるよう、関わっていきたい。 ・系列の学びを活かした進路先に直接つながっているかは別として、概ね実現していると思う。 ・十分といえないが、自分の生き方について考えるきっかけとなったと考える。
		9	地域や産業界等と連携した体験的な学習などを通して進路目標を定め、その実現に向けた取組を充実させることができたか。	B	A	・インターンシップ、職場体験などが将来的に進路目標につながる機会となっていると感じる。 ・2年次のインターンシップは良好であったと感じる。生徒が社会との関わりが持てるような活動を科目内で取り入れていきたい。 ・企業主催のお仕事体験会に希望生徒が参加した。進路選択のきっかけになるなど一定の効果があった。 ・3年次の「社会探究」では集中的に行えている。進路を意識し始める2年次では行えていない。
		10	キャリア教育において、場面に応じて適切に自分の意見を主張する力を育てることができたか。	B	A	・生徒とのキャリア面談は、生徒自身が自己を振り返るきっかけになっている。 ・2年次は人数も多く、他者の視線を感じて自分を出せずに学校で過ごしている生徒が多い。言語活動の場面を多くすることと同時に、発言により影響力のある生徒の指導が必要と感じている。 ・進路指導部主導の面談は生徒個別の課題やキャリア目標や考えに寄り添えていると考える。
	健康・安全指導	11	感染症や熱中症予防の学びを、学校生活での健康・安全への取組につなげることができたか。	A	A	・昨年度に比べて、それぞれが予防を行うことができており、感染症の拡大は少なかった。 ・生徒の健康管理について、養護教諭の情報提供等により、大変よく取り組まれていると感じている。 ・学校の姿勢を取組により具体的に示すことで生徒の意識も高めることができた。 ・日々予防に向けて連携して実践に取り組んだ。 ・朝の健康チェックを行い、予防に努めた。
		12	年次・サポート委員会・スクールカウンセラー・教務部など校内組織の連携を迅速に行うとともに、外部識者・関係機関を含めたケース会議やいじめ防止会議等を開催し課題の共有を図ることができたか。	A	B	・外部の協力を得ながら、解決に向けた取り組みができてると感じる。 ・定期的な情報共有と連携は組織的に図られている。 ・年次では担任を中心に連携することができている。 ・生徒指導部とは連携を取り対応することができたと考える。 ・欠課時数の多い生徒の対応について、サポート委員会から年次により積極的に働きかける必要があると考える。

大項目	中項目	番号	具体的評価項目	達成状況	取組の適切さ	実践事項・改善方策等
		13	ICTを活用し、不登校生徒等に柔軟な学びの保障や教育相談体制を充実させることができたか。	B	B	・欠席が多い生徒への配慮は継続して行っている。 ・オンライン授業など生徒の学びの保障ができていたと思う。 ・校内規定を定め、学びを止めない手段として生徒に提示していただいている。 ・オンライン授業に協力してきたが、急なオンラインの授業は、教員や教室で授業を受ける生徒に負担が大きいと感じる。 ・体制は十分すぎると思う。柔軟な学びの保障と指導の観点と到達の目標が不明瞭である点について議論が必要と考える。
学校運営方針	信頼される学校づくり	14	コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を計画的に運営するとともに、次年度に向けた改善方策を明確にすることができたか。	B	C	・関わることができていない。 ・改善方策についてはこれからだと考えます。
		15	生徒による情報発信を充実させるとともに、幼小中への相互乗り入れ活動を実施することができたか。	B	A	・一部の生徒ではあるが、活動が外部からの高い評価に繋がっていると感じた。こども園や小学校との連携は良好でありが、中学校との更なる連携により、生徒募集に繋げたい。 ・「社会探究」の授業で情報発信を行うことができた。 ・生徒主体の情報発信については、これから充実したものになると考える。
		16	道外生徒の国内留学受入による教育効果を、校内・地域に波及させることができたか。	B	B	・説明会では、清水町出身の生徒に協力してもらった。本人たちも改めて自校の魅力に気づいている様子だった。 ・清水の地域性と本校の特色ある学びの魅力を生徒に発信することができた。 ・教育効果についてはこれからだと思うが、学校全体としての認識が浸透していない点から改善を図る必要があると思う。 ・住居、食事等、受け入れた体制の整備が必要である。 ・地域に向けての発信がよくわからない。留学してきた生徒のその後の様子がわかるとよいと考える。
	校務運営	17	校務の削減・統合・整理を念頭に、新たな視点で校務にあたり、効率的な分掌運営を行うことができたか。	B	B	・ICTの活用により働き方を変える機会を作ることができた。 ・部長を中心としてより効率的に業務を行うことができていた。 ・分掌としては分担、連携を図れているが、全体としては、業務の不均衡を早期解消を図る必要がある。組織的な議論が不十分な点を円滑に進めることが求められる。
		18	引継を確実に行うとともに、企画調整会議等で情報・課題を共有することができたか。	B	B	・今年度担当した仕事については次の担当者の参考になるように書類を残したりメモを残すように心がけた。 ・進路指導部は引継ぎが確実に行われている。 ・企画調整会議後の各分掌や年次へフィードバックすることの有用なICTの活用に関する環境づくりと意識を整えたい。 ・データとして残されている過年度の書類がどこにあるのか見つけるのに苦労した。ファイルの場所がわかりやすいとよい。
		19	生徒・職員相互の発言や多様性が尊重され、学校の心理的安全性は確保されていたか。	B	B	・多様性を受け入れることへの時間的、精神的な余裕がない状況がまれにみられた。 ・自由な発言をする生徒が多く、心理的安全が確保されているとは思わない。一部の生徒の言動により、傷つく生徒を減らしていきたい。 ・靴を隠されたり傷をつけられたりといった件が解決していないのが気になる。警察との連携は良かったと思う。 ・相手の意思を尊重するよう努めた。
	渉外・総務・事務運営	20	家庭、PTAなどの団体や関係機関等と連携し、地域と協働した学校運営ができたか。	B	B	・授業公開など中学校との関わる機会は今後も必要と考える。 ・部活動などを通して、中学校の教員との連携や生徒と関わる機会も生徒募集につながると考える。
		21	積極的な広報活動に努め、より効果的な生徒募集を行うことができたか。	A	B	・効果的な取組が数字につながらないことは、外向きの広報活動だけではなく、今いる生徒がどのようにかかわっているかということも効果的な生徒募集につながると考える。 ・地域みらい留学生募集以外の、より効果的な生徒募集のためには、総務を中心としたチームを組み、組織的に検討していく必要があると考える。
		22	職員や生徒の要望に応える効果的な予算運用や設備投資等に務めることができたか。	A	A	・限られた予算で、必要な教材、教具、設備等の要望に充足して教育効果を維持することができている。 ・振興会の予算で、札幌への物産展に生徒を派遣することができた。
	教職員の資質向上	23	新たな教育課題の解決に向けて取り組むことができたか。	B	B	・日々精進して取組を実践していきたい。 ・生成AI活用、ICT活用、授業評価改善などに努めた。
		24	ミニ研修報告を随時行うとともに、本校職員のアイデンティティ形成に資する校外研修を実施することができたか。	B	B	・研修会の設定時期、時間、参加率が高まる企画を検討していく必要がある。 ・授業に還元したが、研修報告は十分ではなかった。
		25	地域から信頼される清高職員であるために、自ら率先して服務規律に係る研修に努めることができたか。	A	B	・大々的な研修とは言えないが、各職員が服務規律の保持について意識する機会は提供されている。 ・校内研修には積極的にかかわれた。